

原発事故の影響濃く

打開策見えない

売り上げ減る有機農業者

福島県や北関東などの有機農業者がいま苦境に立たされている。東京電力福島第1原発事故による放射性物質の大量放出で、有機栽培する農産物の売れ行きは落ち込み、売り上げが昨年比5割以下の有機農業者も出ている。安全・安心を求めて有機栽培する農産物を選択してきた消費者が、放射性物質に対する不安感から購買を控えているのが大きな要因だ。自ら放射性物質の検査を行うなど安全性確保に取り組んでも売り上げは回復せず、打開策が見いだせない状況に頭を抱えている。

自ら放射性物質の検査も

「空中線量と値が同じだ。問題ない」。千葉県成田市の有限会社「おかげさま農場」代表・高柳功さん(61)が、出荷する野菜の放射線量を計測する。

「空中線量と値が同じだ。

おかげさま農場は、有機農業を取り組む市内の農家25人で組織する。4月以後、売り上げは前年比3割減と大きく落ち込み、現在も回復の兆しはみえない。

原発事故後は、出荷する農産物の放射性物質を簡易計測し、結果はホームページで公開している。

突然購入をやめる人は少なかつたが、子供がいる家庭を中心じ、「やはりと減っている」と話す。おかげさま農場では、現地野菜「アサガホ」は「原発事故後は新規の客が入ってこない。

「より安全・安心な茶を求めるお客様が離れてしまつた。除染して放射性物質の検査結果を公表し、安全性を示したい」と向島さん。「今までの社会は効率と利益が優先されてきたが、生きる上で最も大切な空間と食べ物を維持するには農業が一番大切だ。

震災・原発事故で日本の農業が揺らぐ中での環太平洋連携協定(TPP)参加などを公表し、安全性を示したい」と向島さん。「今は時期ではない」と話す。おかげさま農場では、現地野菜「アサガホ」は「原発事故後は新規の客が入ってこない。

福島から発



安心のネットワーク
NOSAI
全国農業共済協会

〒102-8411
東京都千代田区一番町19
☎ 03-3263-6413
郵便振替口座 00110-0-78844

月4回・水曜日発行
月次購読料420円
年次購読料4680円(税込み)



オリセーメートは日本の農業とともに35年。
これからもあなたを支えていきます。

meiji Meiji Seika ファルマ株式会社

10月3週号(10月19日付)の主な記事

②総合 低迷する農林水産物の輸出戦略を再構築
③暮らし 腰痛を防ぐ介護姿勢

④ASEANプラス3が緊急時用米の備蓄協定

⑧流通 ニンニクを完熟発酵、地域農家から全量買い上げ

© 全国農業共済協会 2011 <http://www.nosai.or.jp/>